



2012-2013 ガバナー月信

国際ロータリー第2690地区(鳥取・島根・岡山)

Governor's Monthly Letter

Vol. **2**

2012.8.1



「アルプスの真昼」 ジョヴァンニ・セガンティーニ

(大原美術館所蔵)



Peace
Through Service

2012-2013年度

国際ロータリー会長 田中 作次

国際ロータリー第2690地区(鳥取・島根・岡山)

2012-2013年度ガバナー 森田 昭一郎

CONTENTS

- 2 ガバナーメッセージ
「国際ロータリー第103回年次大会に参加して」
- 3 ガバナー・エレクトメッセージ
「会員増強について」
- 4~12 特集・会長エレクト研修セミナー (PETS)
- 13~16 担当地区幹事・委員長挨拶
- 17 国際ロータリー年次大会に参加して
- 18 2012-2013年度RI第2690地区
ロータリー財団寄付クラブ目標額
- 19 青少年派遣交換奨学生募集 文庫通信

ガバナーメッセージ

2012年国際ロータリー 第103回年次大会に参加して

(タイ・バンコク 2012年5月6～9日)

国際ロータリー第2690地区ガバナー

森田 昭一郎



倉敷駅、朝5時30分発、伊丹より成田へのフライト、9時30分すぎに成田へ到着。11時のJALでバンコクへ、まるでサーカスのような移動を繰り返しながら、バンコク国際空港へ入った。

本日、気温35度・湿度85%・時差2時間、ちょうど乾季が終わり雨期に入った直後との事、現地の人でも一番キツイ季節だそう。しかし、風があるので日本の夏のようにまとわりつくような熱気はあまり感じられない。比較的過ごしやすい気がした。

空港よりバスに乗り、多少の観光をしながら宿泊先のインターコンチネンタルホテルへ。

ホテルで現地での注意点のレクチャー、添乗スタッフの「とにかく生水は飲まないように、口をゆすぐのもミネラルウォーターで、外食は基本的にホテルで、野外の屋台では食器の洗浄をしてない為、手を出さない方が良い」との事、これでは旅の楽しみが半分になってしまうといささかストレス気味。

翌日は開会式という事で登録をしようとしたが、急遽タイ国王女の来席という事でセキュリティ上、午後の第2回目の開会式にしか登録できなかった。

タイは王国とは知っていたが、国王の支配力はかなり強く、又主産業をおさえているので絶大な権力があるらしく、いささか奇異な感じがした。

大会の会場は、バンコク市外の巨大なコンベンション



ホール“インパクト”で開催されていた。このホールは端から端まで歩くと20分以上かかるという巨

大な建物で、中も重構造になっていて案内図をみてもよく判らない。又、アクセスもあまりよくなく、交通手段にも乏しい。炎熱の中をただ歩く事が多く、一段と疲れが増す。メインの大ホールは圧巻であったが、席数は13,000席用意したという事、しかし、中間所のパイプ椅子に着席しても舞台は、はるか彼方で、演台のスピーカーも米粒程にしか見えない。また巨大スクリーンが一定間隔で吊り下げられている。その本会議の中で、講演をされたカルヤン・バネルジー RI 会長は、「本年度の初めよりもロータリーはさらに強い組織になった」と、またロータリーが確かな未来を築くには、「公共イメージを高めること」と、「新世代の参加が必要だ」というようなお話をされてたが、音響設備の不備と翻訳機の不足で何を話しているのか聞き取りにくい環境にありながらも耳をそば立てて、聞き取る努力をし、暫くしてから私は会場を後にした。

メインホールの隣に、又巨大な“友愛の家”が設けられているが、組み込まれているイベントのコンセプトが全くバラバラで、ただただ散満というイメージのみ残った。

ただ、会場中央のベンチに座って前を通り過ぎていく人達を眺めていると、あらゆる国の個々の民族衣装を着た男女が通過していく。まるで人種の交差点のようで飽きる事がなかったが、私にとってそんな体験はめったに出来ないので大変興味深かった。ロータリー組織が世界の200以上の国と地域に広がった証かしである。

アユタヤ遺跡にも行って見たが、現王朝と異なる為、一切のメンテナンスがされてなく、荒れ果てていたのが印象的であった。ただどうしても見たかったミシュランで五星をとっているマンダリンオリエンタルHOTELはさすがであり、まさに期待通りであった。入った瞬間“これがヨーロッパ人がイメージするオリエンタルなのだ”というコンセプトが一瞬で伝わってくる。それはクラシックにしてアジアンテイストに満ちた空間であった。



会員増強について

ガバナー・エレクト 森本 信一



会員増強はロータリークラブの永遠且つ最重要のテーマの一つでしょう。第2690地区でも増強の掛け声は毎年出されていますが、思うようにその成果が上がっていないのが現実です。過去5年間の会員数は、3,278人（2008年7月）が3,129人（2012年4月）となり149名、4.5%減の状況です。

（ガバナー月信のデータによる）

森田ガバナーは会員5%増強を今年度の目標としておられますが、これでは2008年度の水準に戻すのがやっとで、理想的には10%増強しなければ、実質的な増強にはなりません。しかし、これは言うべくして実現不可能で、5%増は妥当な数値だと思います。各グループともガバナー補佐を中心にして目標達成への具体的な展開を行って頂きたい。

何故、会員増強が思うように進まないのでしょうか？その原因の一つに私は、ロータリーの知名度にあると思います。「ロータリークラブという言葉は聞いたことがあるが、いったい何をしているところですか？」という問いが良くあるといわれます。ロータリーは良いところだから入会してくれと言われても、何をしているのかよく分らないところに、結構な会費を

払ってまで入会するのを逡巡されるのは当然だと思います。企業の社員募集でもネーミングもさることながら、業務内容がよくわからないのでは入社したくても本人は不安に思うはずです。

ロータリーは地域社会にこんな良いことをしているのだというPR活動がまだ十分ではないように思います。森田ガバナーが実施されようとしている「アワード委員会」はロータリーの認知度を高める一つの有効な手段だと思います。

従来、広報委員会は、クラブ奉仕委員会の下部機関に位置付けられたり、それほど重要視されない委員会であるような気がします。ロータリー活動が地域住民に広く知られれば、新会員の勧誘はもっと成果が上がるのではないのでしょうか。

会員増強活動と、広報活動は両方が充実してこそ増強の成果も上がると思います。第2690地区各クラブの皆さん、増強活動に合わせて知名度アップのための広報も充実させましょう。必ず成果が得られると思います。

基調講演 (要旨)

2011-2012年度 ガバナー・エレクト 森田 昭一郎

● RI 戦略計画の3つの重点事項

1. クラブのサポートと強化

→会員の増強そして退会者の防止という意味であろうと理解しています。

2. 人道的奉仕の重点化と増加

→従来から続けてきた奉仕活動をもれなく続けて効果的に進めていくことです。

3. 公共イメージと認知度の向上

→これが最重点項目といえます。ロータリーが何であるかを皆さんに知ってもらい、もっと多くの会員を集めて、ロータリー活動をもっと啓蒙していこう。どうやって公共イメージを上げていくのかをこれを各国で、各ゾーンで、各地区で、各クラブで、個人で考えて欲しいというのがメッセージであったようです。



●2690地区のテーマと最重点目標

2690地区のテーマ「tsu ku su」であり、これは



個人に課せられたテーマであり概念です。またクラブに課せられた最重点目標は「会員増強5%」です。現在、2690地区でも持ち直してきてはいるものの依然会員数の減少はいなめません。

ただ会員減少には、どこかに原因があり、それを取り除けば会員の増強が図れるのではないかと考えます。最終的には150人の増員を目指していきたい。



●2690地区の重点目標

1. RI 会長賞・地区平和賞
2. ロータリー財団活動
3. 新地区補助金
4. 公共イメージと認知度の向上を推進する
5. ロータリーカード取得比率40%
6. ロータリー米山記念奨学金

この6項目について、それぞれのクラブがそれぞれの形で考えながら前を進んでいけたらと思います。その中で





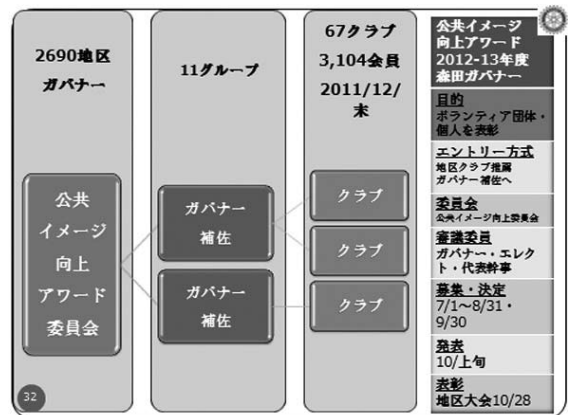
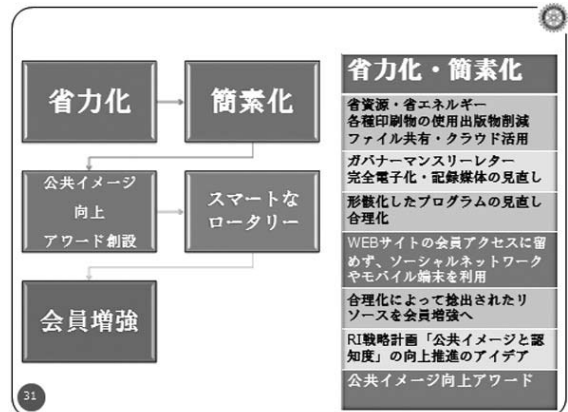
来年度の2690地区のキーワードは「公共イメージと認知度」の向上です。ロータリーのイメージをどういうふうに外部に持ち出せるか?そこが重要になってきます。これが会員増強にとって重要であり、公共に向かってアピールしていくことが大切であり、それがロータリー活動を活発化し、ひいてはロータリーの良いことをしようという精神の伝播となっていくものと考えます。



●来年度のロータリーのテーマ

各ロータリアンの本業に力を入れつつロータリー活動するには、「省力化」が必要となっていきます。「簡素化」をすすめ経費の節減を行うことがクラブ活動の維持へとつながっていきます。

「簡素化」して捻出した資金を使い、「公共イメージ向上アワード」を創設します。



●会員増強 (各クラブ5%の増強を目指す)

田中作次 RI 会長エレクトのテーマ “Peace Through Service 「奉仕を通じて平和を」” と2690地区テーマと「tsu ku su」ともに「会員増強」が最重要目標である。

「会員増強5%」目指して皆様のお知恵とお力を是非お借りしたいと思います。



文責 出版委員会 原 浩之

CLP について 「ロータリーの未来に向かって」(要旨)

2011-2012年度 ガバナー 伊藤 文利

まずは、要覧を是非ともクラブのリーダーの会長には何回も読んでいただきたいです。

その要覧の1ページ目は「ロータリークラブ」です。RIはロータリークラブに対して治外法権です。クラブは独自性をもっており、何びとたりとも侵すことは出来な
いし、それくらいクラブは権威を持っています。

手続要覧の1ページ目にあるのはその「クラブの管理」です。その3ページ目に載っているのが「クラブ・リーダーシップ・プラン (CLP)」です。

今回はその「クラブ・リーダーシップ・プラン (CLP)」の話をしていただきます。

●創設者ポール・ハリスの名言

2月23日は108回目のロータリー創設記念日です。創設者ポール・ハリスは、いろんな名言を残しています。その中で私がもっとも今日の場にふさわしい名言として、この言葉を皆様を紹介したいと思います。

『世界は常に変化している。ロータリーはこの世界と共に変化して成長していかなければならない。ロータリーの物語は幾度も書き換えられなければならない。』

この言葉を心にとめておいていただければ幸いです。

●アメリカ人の考え方や生き方

CLPのお話の前にアメリカ人の考えや生き方を知っていただきたいです。

この考え方や生き方を知っておくとRIのやり方が多少でもわかると思います。

米国人の考え方・生き方	
1: 自主・独立	権威に忠誠 (自己責任)
2: 合理的	因果律 (選択と集中) (結果重視)
3: 変化に大胆	修正事項速発
4: 一神教	性悪説 (キリスト教社会) (契約、慈善)

●CLPは従来のクラブ運営とどこが違うか?

よく質問をうけるのが、CLPを採用するとロータリーの根幹にかかわる部分が変わるのではないかということです。声を大にして申し上げたいが、「CLPはあくまでも手段である。目的ではない。」このことを是非知っていただきたいです。CLPは決して職業奉仕、社会奉仕を軽んじているのではないということです。

CLPは従来のクラブ運営とどこが違うか	
1.	米国流の選択と集中の概念がベース
2.	委員会を絞り、全員参加型を目指す
3.	All-aroundな会員をつくる
4.	理論より実践を主とした奉仕活動を目指す
5.	クラブ、グループ、地区を超えるネットワーク
6.	クラブ、グループ、地区を超えるリーダー
7.	枠組みを変え、合理化、効率性、継続性を
8.	職業・社会奉仕等に関して何ら変わらない

●現在CLPを導入しているグループ

クラブ会員3,141名 67クラブ 平均46名 クラブには独自性があるので、CLPを導入しなければならない訳ではないですが、RIから発行される手引きはCLP・DLPに準拠しております。多少余計な勉強が必要になってきます。食わず嫌いにならぬようCLPを活用して下さい。

当地区グループ別CLP導入の状況													
平成23年12月31日現在													
	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	合計	比率%
実施	2	3	3	4	3	0	4	0	2	1	1	23	34
検討中	2	2	1	0	1	1	1	1	0	0	1	10	15
未実施	4	0	1	1	1	7	3	4	4	3	4	34	51

●CLPとDLP

CLPは管理的枠組みです。そしてDLPは人的組織です。言葉を大にして言いたいことは「地区はクラ



ブを支援するためにある」ということです。

●効果的なクラブとなる4つの要素

手続要覧の2ページ目トップの「ロータリークラブの管理」いうところに載っています。すなわち理想的なロータリークラブは、この4つの要素が必要だということです。この4つ要素を持つことがクラブの最も理想的な姿です。

効果的なクラブとなる4つの要素
(RIの最重要目標)

1. 会員基盤を維持・拡大する
2. 内外の地域ニーズに応える奉仕プロジェクトを実施・成功させる
3. ロータリー財団を支援する
4. クラブの枠を超えリーダーを育成

Hiro Funahashi

●CLPをもつことによる恩恵

RIの出したデータをピックアップしたのですが、大事なことは「継続性」という言葉。長期計画という言葉を使っていたが、今は戦略計画です。ただども時間的なスパンを示す言葉として「継続」という言葉をよく使うので覚えておいて下さい。

CLPの恩恵

- ・ プロジェクトおよび意思決定の継続性
- ・ 意思決定および目標設定の際の統一見解
- ・ 奉仕目標を達成するための能力の向上
- ・ クラブ指導者が活動できるより広範囲かつ充実した分野
- ・ クラブ指導者の引継ぎ計画
- ・ クラブ活動における全クラブ会員の参加

Hiro Funahashi

●CLPで作る5つの委員会

この5つの委員会の下にいろいろな小委員会をクラブ独自で作って下さい。

(EX:クラブ広報の中にアワード委員会など)

大事なのは5つの委員会を作してほしいということです。



●DLPとCLPの関係

地区 (DLP) とクラブ (CLP) は、コンセントとソケットの関係です。クラブレベルの委員会と地区レベルの委員会が、コンセントとソケットの位置関係をなさなければなりません。

森本ガバナー・ノミニーは現在模索中であり、我々は協力し、さらなるコンセントとソケットの関係を明確にしていきたいと考えます。それでこそ地区がクラブを支援することになるのです。CLPをいくら作っても、DLPが不完全であればどうにもなりません。今後とも地区を預かるものとしてその部分を考えていかねばなりません。

地区からの支援
(DLP→CLP)

ク ラ ブ	地 区
会員増強委員会	会員増強委員会
クラブ広報委員会	広報委員会
クラブ管理運営委員会	ガバナー補佐
奉仕プロジェクト委員会	各種プログラム委員会
ロータリー財団委員会	ロータリー財団委員会

Hiro Funahashi

●最後に

ロータリアンの最終目的は、綱領を守り、そして奉仕の理念を尽くすことです。

そして、それを実践に結びつけることです。「CLP」は魔法でもなんでもなく「単なる道具である」ことを理解してください。

文責 出版委員会 原 浩之

特別講演

自分づくりの出発点 —奉仕の哲理を求めて—

中国学園大学・中国短期大学 学長 松畑 熙一



奉仕の基本となる人間哲理を考えるに当たっては、あくまで「自分づくり・人づくり」が原点であり、「意識の向上と魂の深化」を目指して「自分づくり」をしっかりとすることがすべての出発点となります。「人(ひと)」という日本語は、「他人」のことを言う場合も多いので、「人づくり」というとき、自分のことは外に置いて、人のことを問題にすることが多い。あくまで自分づくりが人づくりの原点になければなりません。

「自分」とは、いわば「自然の分身」であり、自然の中の私を大切にしなければなりません。単なる「人間力」よりもむしろ、自然に生かされて人間として生きる「自然人間力」を培うことが基本的に大切です。私たち人間は皆、天地のつながりの中に生かされ生きている存在です。すなわち、自分は自分のものでありながら、かつ自分だけのものではないのです。人間皆約9割は共通していて、自分として意識的にコントロールして主体的に生きているのは、1割程度に過ぎません。

「本来の自己」である「真我」を大切にすることを通して、始めて真の「利他精神」が生まれるものです。日本人は、古来より、自分と他人を特別分離して考えることなく、自分と同じように他人や集団を重視し、自分を抑え、自己主張を避けようとする傾向があります。日本人は、気配り、思いやりを重視します。昨年の東

日本大震災は、生きることの原点が問われ、「絆」や「思いやり」の見直しの大きな契機となりました。

「共助」と「アイデンティティ」を原理とするボランティア活動が見直されています。「情けは人のためならず」というように、むしろ「自分のため」なのです。ボランティア活動は、自己実現・社会貢献を実現するものです。

中国学園大学・中国短期大学では、学生中心の街頭募金活動を展開し、大学として公的に「学生災害ボランティア」を、宮城県気仙沼高校の被災地に5回にわたって派遣しました。「現場生活学習」という貴重な学びと体験を今後の勉学や生活に活かす大きな機会となりました。

自然・人間・社会の繋がりに基づく新しい価値観による社会変革への可能性を希求しながら、「自分づくり」を核にした奉仕の哲理を探っていきたいと思っています。





奉仕を通じて平和を

元 RI 理事 渡辺好政



と願っております。

私は、ロータリーの魅力は、ロータリーを通じて素晴らしい出会いを経験できることであると確信しております。

私は、32歳で眼科医院の開業とともに母校の大学病院眼科で講師として多忙な毎日を送っていました。ある時、母校の大先輩の外科医と、商工会議所会頭とともに、この地域に創立されるロータリー・クラブの創立会員になるよう、熱心に勧誘され、1965年、児島 RC の創立会員となりました。

ある例会の時、例会場の入口で、「四つのテスト」を暗唱できた人は席に座れることになりました。私は、なんとか、クリアして、ホッとしながらも、その時の卓話者による「四つのテスト」は、ロータリーの職業奉仕のコアであることを学びました。これが、私のロータリー・ライフの転機となりました。

ホームクラブでは、1970年にクラブ幹事を経験し、1978年に、エルパソ東 RC との姉妹クラブ提携など国際交流を通じての奉仕に取り組み、ロータリー・クラブ会員であった私は、次第にロータリアンになっていく自分自身を体験しました。

その後、クラブ会長、地区ガバナーとなり、やがて、1997年、国際協議会の Training Leader となりまし

た。クラブ会長エレクトの皆様には、新年度をお迎えになる前に、ご自身のロータリー・クラブに入会された時に思いを馳せながら、今一度、「ロータリーのよいところ」を見直していただき、ロータリーの魅力を再認識していただきたい

た。Training Leader Meeting の始まる前に cheer leader は、次のようなエールを唱えます。“Forest Finest Forces! If it is to be, it is up to me!” 「それは、ワタシシダイです。目標を立てて、それを達成できるかどうかは、ワタシシダイです。すべて、ワタシシダイです。」 その時の cheer leader こそ、2012-13年度、日本から3人目の RI 会長になる田中作次さんでした。

1998年国際協議会には、私が Cheer leader に指名され “Slager Super Stars! If it is to be, it is up to me!” と心から叫びながら、Leaders 各位と職務に精励したものでした。私は、一人が目覚めるとき、その組織が強固なることを体験したのです。そして、そのことが、必ず、人のためになり、ひいては、自分自身の新たな発見となることを確信しております。

私は幸いにも2006-08年度の RI 理事を経験し、世界的な多くの友人との友情の深さを経験しました。そして、多くの人を国際大会に熱心に誘っております。一度国際大会に参加したロータリアンは退会しないといわれています。クラブ会長エレクトの皆様、どうか、クラブの皆様へ声をかけていただき、リスボンの国際大会に参加してください。

クラブ会長エレクトの皆様には、リーダーシップを大いに発揮され、RI テーマ「奉仕を通じて平和を」を実践されますことをご期待申し上げます。



グループディスカッション

テーマ

「会員増強に向けて」

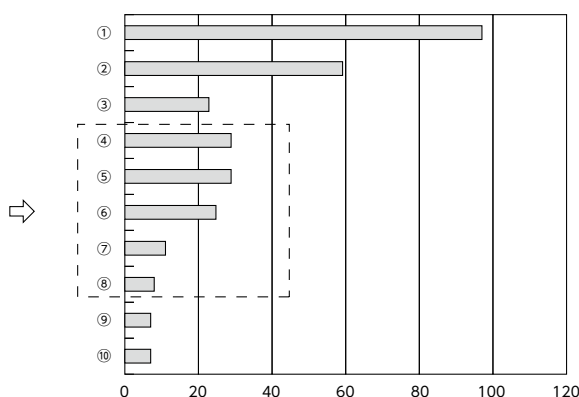
事前にとったアンケートをもとに各グループでディスカッションを行いました。

<アンケート結果>

2. 会員減少の要因

→回答内容を分類

	(回答数)
①経済的要因(経費削減、経営難、廃業・支店閉鎖、会費負担難、等々)	97
②高齢化(病気、体力不安、死亡、等)	59
③時間的要因(多忙で例会に出席できない、等)	23
④会員間の人間関係	29
⑤自クラブの活動に対する評価・魅力の低下(内からの評価)	29
⑥一般的なロータリーの評価・魅力の低下(外からの評価)	25
⑦会員増強活動が不十分	11
⑧他の奉仕団体との競合	8
⑨人口減少	7
⑩その他	7
計	295



データ提供：次期地区幹事 土倉修治

第1・2
グループ

カウンセラー
パストガバナー
延原 正 (岡山南 RC)

リーダー
次期ガバナー補佐
小林 健治 (倉吉 RC)

副リーダー
ガバナー補佐
杉原 弘一郎 (米子東 RC)

フリートーク形式で「会員増強」をするための方法や成功事例などについてメンバーから様々な意見をいただきました。

まず「特徴を持ったクラブ作り」をしているクラブは、会員数が増えているというお話がありました。例えば「クラブ内に野球部があり、強くそこからの会員増があった。」また「クラブ内に青年部を作り、その若い人達が増強に乗り出してくれた」という話もありました。

「青年団体」に着目しているクラブもあるようです。その団体からの入会を増やすために事前の勧誘を行なっているという意見や、「女性会員」に注目し、「育児休暇制度など入会しやすい環境を整えていくのはいかがでしょうか」という意見もありました。また「メンバーの人脈やつながりを駆使し、増員につなげていく」という意見もありました。

最後に延原 PG のお言葉として「ロータリーは人が減っていくのが当たり前です。全会員でこれ以上減らさないという意識の改革が必要です。増員は一人ではできません。全員で取り組みましょう」というお話をいただきました。

また延原 PG がおっしゃった「10年先のクラブに責任が持てるのか？」この言葉をメンバー全員が心に刻みディスカッションは終了しました。

文責 出版委員会 原 浩之



特集

会長エレクト研修セミナー（PETS）

2012年3月3日(土)・4日(日)

第3・4・5 グループ

カウンセラー
パストガバナー
葛尾 信弘 (松江東 RC)

リーダー
次期ガバナー補佐
和田 史朗 (松江しんじ湖 RC)

副リーダー
次期ガバナー補佐
西尾 崇 (大社 RC)

世界的には増えているロータリアンですが、日本は残念ながら会員は減少している。特に伝統クラブの減少が目立っている。その中で当グループでは各クラブの抱負や意見をいただきました。

お話を聞いていますと会員の減少が多いクラブの中

で、会員が増えているクラブもある出雲中央 RC は、市民の森での奉仕活動を通じて継続して親睦を深めています。

その地道な活動が増員につながっている。

また平田クラブでは、ロータリーのチラシを行政にお願いし配布いただいたりと、認知度をあげる工夫を行っています。

両クラブとのポイントは継続して、しかも地道に活動を行うことが好結果につながっているようです。

あと会員増強の施策としては、若手中心の会員増強プロジェクトチームの結成や、退会者への呼びかけ、会員の人脈を駆使した勧誘など、活発な意見がでておりました。

文責 出版委員会 原 浩之

第6・7 グループ

カウンセラー
パストガバナー
森下 和郎 (総社 RC)

リーダー
次期ガバナー補佐
小鍛冶 元慎 (総社 RC)

第7グループ次期ガバナー補佐代理
次期地区副代表幹事
内田 耕太郎 (倉敷 RC)

※香川俊一次期ガバナー補佐欠席

両グループ10年で約100名会員が減少しています。その中で会員数を増やしているクラブの現状を聞く中で

何かヒントがないかと探ってまいりました。

「若手の会員」同士で月1回の勉強会を開催し、そのあとの懇親会。そういった親睦を深めることが退会防止につながっています。また体験入会を行い、ロータリーを知ってもらうこと、魅力あるクラブ作りという意味で、クラブ内でプロジェクトをつくり、それに全クラブ員が参加するようにしています。それにより、クラブへの愛着が生まれ、そこから増員へとつながっていくとのことでした。

最後に森下 PG からは、「楽しいロータリークラブになることが重要」とのお言葉をいただきました。

文責 出版委員会 原 浩之



特集

会長エレクト研修セミナー (PETS)

2012年3月3日(土)・4日(日)

第8・9 グループ

カウンセラー
パストガバナー
森 高正 (津山 RC)

リーダー
次期ガバナー補佐
安東 達雄 (美作 RC)

副リーダー
次期ガバナー補佐
滝澤 輝治 (岡山 RC)

2グループにおいて過去10年間で76名の減少をしているという状況があります。その理由としては、昨今の経済的理由、そして高齢化があげられます。ただそんな中、備前 RC は、17名の増加をされています。増加した大きな理由として考えられるのは、年会費を下げた部分もあるかと思いますが、やはり現会長の会員を

増やすということへの強い熱意と情熱であると思われます。

今後はこの17名の会員に対する退会防止が課題となってきます。ロータリーを理解していない可能性があるからです。

そう言う意味では、退会防止も含め、「ロータリーの魅力をどうあげていくか?」ここが大きなポイントとなってくるかと思えます。

それには、現会員に対してロータリーの魅力を高めるために「クラブ内のフォーラム実施を行うことや、入会3年未満の人たちと歴代会長と数回にわたり会食を行うような活動を通して、ロータリーの本質を会員が理解し、それが募集活動へつながっていくのでは」というご意見もありました。

文責 出版委員会 原 浩之

第10・11 グループ

カウンセラー
直前ガバナー
小林 完治 (岡山西南 RC)

リーダー
次期ガバナー補佐
村山 洋二 (岡山西 RC)

副リーダー
次期ガバナー補佐
谷本 隆臣 (大田 RC)

我々は人として生まれ仲間をみんな欲しいと思っています。そして仲間が集まれば、そこには「奉仕」が生まれてきます。そして奉仕を行うことには「tsu ku su」が素となっています。来年度のテーマ「tsu ku su」を通じて仲間をふやしていきたいという思いがございます。

このグループには150名の大きなクラブがあり、その

クラブから、「例会が楽しい。だから殆どやめない。入会は少ないがやめないので増える。」というお話がありました。感動を受けました。やはりそこにあるのは「楽しい」であり、それが原点であると思いました。

そういった中、「急激な増強は、急激な退会につながる」というお話もできました。「その部分は慎重にいったほうがいいのか」というご意見もありました。

また、再入会したクラブが仲間として快く受け入れてくれたというお話がありました。そこにも「楽しい」が原点にあります。「楽しい」という意識を会員がもっていくこと大切ともお話されていました。

最後になりましたが、やはり仲間を増やすには「楽しい」例会が一番のメインであり、その「楽しい」にはやはり来年度のテーマの「tsu ku su」が一番ではないかと思えます。

文責 出版委員会 原 浩之



担当地区幹事・委員長挨拶

地区ロータリー財団委員長

鳥居 滋



今年度は、RI 第2690地区がパイロット地区として、ロータリー財団の新しい「未来の夢計画」の仕上げの年にあたります。当地区では、特に「新地区補助金の活用」に重点を置いて活動してまいりました。幸い、小林、伊藤両ガバナー年度の企画は無事クローズドされましたので、いよいよ最終年度である森田年度のプロジェクトが始まります。この「新地区補助金」プロジェクトは、確かに、クラブの奉仕活動の活性化に大きな力となっております。実際、クラブ奉仕活動の可能性を広げた効果は非常に大きいものがありました。森田年度では、更に斬新な工夫をもって、クラブの奉仕活動が一層充実したものになることを期待しています。

地区世界社会奉仕委員会委員長

延原 正



WCS プログラムは、1967年に発足した、国際奉仕に属する活動であります。「世界の人々の生活を改善し、人々のニーズに応えるプロジェクトを実施する。そして、物理的、技術的、専門的援助を通じて、国際理解と親善を推進する」と手続要覧にあります。しかし、このプログラムの名称から、ロータリー財団の人道補助金プログラムと混同されるケースが目立ってきたため、国際ロータリーはWCSを廃止したが、ロータリアンによる国際奉仕プロジェクトは全面的に支援するとしています。わが第2690地区は、地区としてWCSの国際社会に対するいままでの活動実績を高く評価し地区世界社会奉仕委員会として活動を継続いたします。

地区代表幹事

井上 峰一



地区の最重点目標としましては、各クラブ5%の増強と致しました。森田ガバナーは「公共イメージと認知度の向上」を掲げて「キラリ☆一番星アワード」を創設して、草の根の市民活動を支援するプログラムを企画し、ロータリーの公共イメージが当アワードの一連の活動を通じて地域に広まり、会員増強へと結び付くことを想定しています。森田ガバ

ナーは事務処理の省力化・簡素化を行い、各種印刷物の削減とクラウドを活用しての円滑な情報伝達を実行します。特に月信の完全電子化によるリソースは、会員から新たな出費を求めることなく当アワードのプログラムに充当致しました。次世代に繋ぐべく簡素化されたスマートなロータリーの第一歩を「森田丸」は踏み出します。第2690地区の皆様におかれましては総力をあげてご支援を賜りますようお願い申し上げます。

地区会計長・地区資金委員会委員長

虫明 優



厳しい地区財政ではありますが、省力化、簡素化、合理化の推進による支出抑制、会員増強による収入アップを図り、健全かつ適正な会計を実施してまいります。

会員の皆様には、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

ロータリーの友地区代表委員

井上 隆夫



森田ガバナーは重点目標の一つ「公共イメージと認知度の向上」を図ることによって「5%の会員増強」を地区の最重点目標に掲げられました。これらの向上を図るには、ロータリアン自身のロータリー活動の認識と自覚が更に必要であると考えます。しかし、実は「ロータリーの友」誌にその答えは載っているのです。そこで、本年度は地区全体として「ロータリーの友」誌活用を推進して参ります。2012年8月4日に二神編集長をお招きしての講演の中から、多くのヒントが盛り沢山の「ロータリーの友」誌活用法を30分ビデオに纏め、各クラブにお届け致します。良いところは取り入れて、各クラブのロータリー活動が益々奉仕の理想の実現に向けて実践されますことを願うものであります。

職業研修チーム小委員会委員長

丹波 伸夫



職業研修チームVocational Training Team (VTT)は、研究グループ交換(GSE)プログラムの「未来の夢計画」次世代プログラムとして誕生し、より世界社会貢献度の高いプログラム

担当地区幹事・委員長挨拶

になっています。

そして、特定の分野において現地の人々を指導したり、職業に関する技術を学んだりする目的で専門職に携わる人々から構成され、派遣及び受入れをいたします。

名前は小委員会となっていますが目的が大ききだけに、どのように進めていくか、森田ガバナーの方針のもとあらためて企画構成を行ない、取り組んでいきたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

財団学友小委員会委員長 櫛田 修平



ロータリー財団が長年にわたり奨学金を提供してまいりました。未来の夢計画では、教育を支援しやすくするため、規定を簡素化し、これまでより幅広い機会を提供しています。奨学生

派遣事業は、将来を担う人たちが、地域から世界に貢献出来る人材に育てることを目的としています。前年度は、河本愛美（倉吉RC推薦）、孝岡睦子（岡山北RC推薦）2名の方が新地区補助金奨学生に決まりました。本年度は、2013年～2014年の申請書について各クラブの推薦を通じて2013年2月に受理し、2013年3月面接・語学スピーチ等による選考会を行います。地区の皆様方のご理解を頂き、優秀な人材を推薦して頂きます様お願い致します。

新地区補助金小委員会委員長 中村 公彦



「未来の夢計画」試験地区として、2010年7月から取り組んでいる「新地区補助金」は、試験期間最終年度の本年度は、32プロジェクトの申請を行いました。ロータリー年度のスタート

と同時に、各プロジェクトが次々に実施されます。全てのプロジェクトが完璧に実施され、大きな効果と共に、ロータリーの公共イメージが向上することを願っています。そのような最中、我々は次年度の申請に向けて取り組む必要に迫られています。来年3月の申請期限には、今まで以上に充実した内容のプロジェクトが出揃うことを期待しています。そのために地区委員会は全力を挙げてお手伝いをいたします。全世界への手本となりますよう、ご協力をお願いいたします。

資金推進(ファンド・レイジング)小委員会委員長 加戸 義和



ロータリー財団活動は皆さまからの尊い財団募金により成り立っております。資金推進小委員会の役割は、年次プログラム基金と恒久基金の地区資金目標に向け、ロータリアンにその

主旨を理解していただくべく情報提供に努めると共に、財団寄付の懇請を行うものと考えます。

ロータリー活動が、活発に着実に運営されるためにも、財団寄付が不可欠であることのご理解をいただき、皆さまのご協力の程よろしくお願いいたします。

ポリオ・プラス小委員会委員長 藤原 威信



この度、ポリオ小委員会の委員長を仰せつかりました藤原と申します。森田ガバナー並びに事務所の方々に迷惑を掛けぬよう、そして少しでも役に立てられるよう頑張る所存です。これ

から1年の森田ガバナー年度を宜しくお願いします。

ポリオは口から感染後、腸の中で増殖し便の中に排出され、他の人に感染します。乳幼児が感染し発症する事が多く、腸管まで到達し増殖すると最終的には脊髄の一部に入り込み、手や足の麻痺症状を起こし、生涯にわたって苦しめる事になる恐ろしい病気です。発生源では生ワクチンを口から投与します。通常3回投与することで、1～3型のウィルス全てに抗体が作られます。ポリオは現在でも東南アジア・南アジア・中近東・アフリカで発生しています。清浄国と言われる日本や先進国では不活化ワクチンが使用されています。

ポリオはワクチン接種により99%以上の予防率が認められています。撲滅可能なウィルスがポリオです。ロータリーは25年間にわたり経口の生ワクチンを20億人以上の子供達へ投与してきました。これからも年間推定で8億5千万ドルが必要と言われていています。皆の寄付で以下のように役立てることが出来ます。

- ・ 60ドル：子どもたちへのポリオ予防接種 100人分
- ・ 100ドル：予防接種推進用ポスター 200枚
- ・ 250ドル：保健員、ボランティア、ワクチン投与者を識別するためのエプロン 500枚
- ・ 500ドル：予防接種を受けた子どもを識別するために指に付けるインク 4,000人分



担当地区幹事・委員長挨拶

- ・1,000ドル：ワクチン冷却運搬ケース 700個
皆様の温かい寄付をお願いいたします。

世界社会奉仕委員会委員長 星島 和一郎



延原正地区世界社会奉仕委員長の指導、指示に基づき、世界社会奉仕（WORLD COMMUNITY SERVICE）の支援に係る国際奉仕に属する活動を行います。

米山記念奨学委員会委員長 原 武治



米山奨学会は日本ロータリー創設者米山梅吉翁の偉業を記念して、海外からの日本に留学する学生の勉学を支援する奨学事業です。1952年に東京ロータリークラブが発表し、1967年に財団法人となり45年になります。これは世界でも類のないロータリー会員の寄付金による日本独自の奉仕活動であります。奨学生採用数は年間800人、事業経費14.3億円（2010年）、日本最大の民間奨学事業であります。これまで支援した奨学生数、1万6,389人（2011年7月）、120ヶ国と地域に跨っています。その特長は世話クラブ・カウンセラー制度、また、同窓会組織である米山学友会の活動にあると言えます。2013年度は残念ながら採用数が100名減少し700名となりました。より多くの留学生支援のため、各クラブにおかれまして、寄付金の増進をお願い致します。

会員増強・職業分類委員会委員長 桑村 琢



国際ロータリー第2690地区の会員増強・職業分類委員会を担当することになりました。

今年度、森田ガバナーの最重点目標は、「各クラブ5%の会員増強」です。増強とは、増やして強化することであり、増やした後の強化があつてこそその会員増強です。

しかしながら「言うは易く行うは難し」で、一朝一夕には進まないものですし、各クラブや地域性で増強への取り組み方も変わるものだとも思います。

私自身は親睦こそが会員を増やしクラブを強くする事に繋がるものと信じ行動していこうと思っています。

皆様方のご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

雑誌・広報委員会委員長 木谷 臣往



雑誌・広報委員会は森田ガバナーの意向を会員の実践の中から広く理解を深め、例年2月ごろに開催されておりました地区雑誌・広報委員会を年度初め8月4日に行動計画の説明と演題『公共イメージ及び認知度の向上と「ロータリーの友』』のセミナーを実施し、読書率の向上を図るため提案をします。

- ・各クラブでプログラム委員と相談し、毎月の卓話時間を数分間確保し、3年未満の新入会員に読書感想3分間スピーチを「仕組み化」します。
- ・この実践活動を通して雑誌への投稿推進に関心を集める機会を増やし、ロータリアンとしての奉仕の理想を育成、及び質の向上を図って頂きます。
- ・今年度も各クラブの活動状況などのアンケートを集計し、各クラブに報告すると共に情報の共有に役立たせて頂きます。

各クラブの活動や運営に役立てられます様、皆様の協力をお願いします。

職業奉仕委員会委員長 刀禰 美喜男



職業奉仕はロータリアンがロータリアンたる所以の最たるもので、仕事に誇りを持ち、努力し、道徳水準を高め、その上で仕事を通じて世の中に奉仕することに他なりません。“He profits most who serves best”は全てのロータリアンが拠って立つ所であります。個々人が日頃の職業上の実践の中で行なう行為自体が職業奉仕であり、結果として社会の問題やニーズに役立つことになるものと信じています。

職業人としての心構えを示す「4つのテスト」をチェックシートに、職業の実践を通じて社会に貢献して行きたいと思えます。ご協力のほどよろしくお願い致します。

担当地区幹事・委員長挨拶

ローターアクト委員会委員長 三宅 典一



新世代奉仕が第5の奉仕として決定され、3年目をむかえます。その一角として、ローターアクト委員会が、アクトメンバー一人一人に貴重な体験を通して成長リーダーシップを身につけ、日本の明日を託す若者としての人材育成ができるよう、我々ロータリークラブが援助し支援していくことは有意義なことだと思います。

我々ロータリーも目線を同じくして共に歩み、共に活動する関係を再構築し、人材育成と社会奉仕に力を注ぎ強力なパートナーシップを築き地区内ロータリークラブへ情報発信をしてローターアクトへの関心を深めて頂く努力をしなければなりません。当委員会へのご支援・ご指導賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

インターアクト委員会委員長 藤南 一朗



インターアクトクラブ (IAC) とは、奉仕と国際理解に貢献する青少年のための、ロータリークラブ提唱の世界的団体で、120以上の国と地域に1万3千以上のIACがあり31万人強の会員が活動しています。

RI第2690地区では現在18のIACがあり、地域の清掃のような日々の活動から、被災地や海外でのボランティアまで各クラブで様々な取り組みを行っております。そして、毎年7月末に一泊二日で開催のインターアクト地区大会では、インターアクターが一同に集まり交流を深め、活発に意見交換している姿を見るに、このクラブの意義をととても大きく感じます。

その中で私たちにできることは何か、IAC提唱ロータリークラブの方はもちろん、地区内全てのロータリアンの皆様にも積極的にご参加ご意見を頂戴し、より良い活動ができますよう、また1クラブでも拡がりますようご支援ご協力賜りたく宜しくお願い申し上げます。

新世代奉仕委員会委員長 木下 広志

新世代奉仕には、RYLA やローターアクト、インターアクト、青少年交換などいくつかの活動があります。この度、私はRYLAをとおして、若い世代にリーダーとしての資質を高められるようプログラムを構成する大役



を仰せつかりました。

すでに講師予定者とのミーティングも開始しており、コミュニケーション能力向上をテーマにそれぞれの講師が若い世代にどんなことを伝えられるか、わくわくした気持ちで研修スケジュールを練っております。ロータリー会員でさえも学びたいような奥の深い研修をご期待ください。

青少年交換委員会委員長 垣内 敏彦



最近の若者は、内向き志向なのか、或いは、安定志向が強いのか、日本から海外への留学生の数が減少しているという記事を読んだことがあります。

私は1988年から92年までの4年間、ブラジル・サンパウロに駐在しておりました。当時のブラジルはインフレ率2000%、1000分の1のデノミや預金封鎖など、今のスペインやギリシャを上回る「カオス」という言葉が相応しい国でした。

しかし、私の人生にとって、ブラジルでの経験が大きなプラスになったことは間違いありません。

これからの1年間、より多くの青少年が海外に雄飛し、様々な経験が積めるよう、ロータリアンの皆さんとともに青少年交換事業に取り組んで参りたいと思いますので、ご支援・ご協力の程よろしくお願ひいたします。

国際奉仕委員会委員長 小林 清彦



2012-2013年度のRIテーマは「奉仕を通じて平和を」であります。

RI会長は「それは、平和をどのように定義するにしても、私たちは奉仕を通じて、平和をもっと現実近づけることができるからです。」と述べられています。

「平和」は安全で安心できる未来を意味し、安定した社会での人生と家庭を意味するとも言われています。

そこで、第2690地区国際奉仕委員会のテーマは、「国際奉仕を通じて平和を」と考えますと、この委員会永遠の目標である国際理解と親善を推進し平和を追求することに他なりません。

地区会員の皆さま方の、各クラブおよび家庭・職場・地域社会等々でのより一層の活動推進を宜しくお願い申し上げます。

国際ロータリー年次大会に参加して

微笑みと逞しさ in バンコク

2012-2013年度 地区大会実行委員長 鴨井尚志



バンコク中心部の夜景

去る5月6～9日の4日間、2011～2012年度の国際ロータリー年次大会が、微笑み (thousands of smile) の国タイで開催され、200を超える国と地域のロータリアンが集結しました。日本からの登録者数は、3600名以上と聞いています。

多くの方がそうであるように、私も、まだ記憶に新しい「昨秋タイを襲った広域大洪水」をどれほど克服できたのか?という一抹の不安を抱きつつ大会に参加しましたが、それは会場に着くと杞憂に終わり、素晴らしい設営と運営に感動しました。

タイ語のわからない私を大会会場入口で最初に出迎えてくれた、現地の学生と思しき若いボランティア・スタッフは、ていねいに説明をしてくれた後、「Have a nice stay in Thailand!」と、満面の笑みで開会式場へ誘ってくれました。まさに国を挙げての歓迎を垣間見た気がします。

一方、国際大会会場を離れ、首都バンコクに移ってみますと、高層ビル、モノレールなどの近代的でファッショナブルな建物やお店、交通機関に埋もれながら、生活の格差を感じる光景を街のあちこちで目にします。しかし、同時にタイという国の「底辺の活気」を見ることもできます。

タイの国では、ホンダの車にトヨタのエンジンを載せて走らせる人がいます。車のエンジンを船に載せ、船外機に変えて川を疾走する人がいます。精巧な、ブランドのコピー商品を作り、したり顔で売っている人がいます。

自分たちが生きていくためには、また自分たちの生活を少しでも向上させるためには、「あの機械がないから、仕事できません」、「この部品がないから、作業になりません」などと言ってられません。彼らには、「何とかしなければ…」 「何とかしてやろう!」といった、生きていくためのしたたかで、力強く、逞しい、熱気とも言える生命力があります。

日本人とタイ人、「いざ!」というとき、どちらが生き残れるのでしょうか?

彼らの底力にも支えられた国際大会であったのではないかと思いつつ、微笑みと逞しさを併せ持つタイという国に、とても魅力を感じてしまいます。



2012-2013年度 国際ロータリー第2690地区

ロータリー財団寄付クラブ目標額

G	クラブ名	年次寄付目標	大口寄付者の目標数	新ベネファクターの数	「遺贈友の会」新会員数
		単位(ドル)	(人)		
第1	智 頭	1,400	0	0	0
	倉 吉	8,120	0	1	0
	倉吉中央	2,300	0	0	0
	倉 吉 東	4,300	0	0	0
	鳥 取	8,820	0	1	0
	鳥取中央	4,200	0	1	0
	鳥 取 北	7,560	0	1	0
	鳥 取 西	7,840	0	1	0
第2	境 港	4,600	0	0	0
	米 子	6,500	0	1	0
	米子中央	3,400	0	0	0
	米 子 東	11,900	1	1	1
	米 子 南	7,000	0	0	0
第3	松 江	8,400	0	0	0
	松 江 東	8,120	0	1	0
	松 江 南	8,960	0	0	0
	松江しんじ湖	9,100	0	1	0
	隠岐西郷	3,780	0	0	0
第4	平 田	5,180	0	0	0
	出 雲	5,000	0	1	0
	出雲中央	6,860	0	1	0
	出 雲 南	8,540	0	1	0
	大 社	6,020	0	1	0
第5	江 津	2,800	0	0	0
	浜 田	8,120	0	0	0
	益 田	3,220	0	1	0
	益 田 西	4,200	0	1	0
	大 田	3,500	0	1	0
第6	井 原	6,580	0	0	0
	笠 岡	7,140	0	1	0
	笠岡東	5,740	0	1	0
	新 見	3,220	0	1	0
	総 社	5,460	0	1	0
	総社吉備路	5,040	0	0	0
	高 梁	6,300	0	1	0
	玉 島	4,200	0	0	0

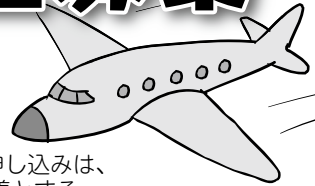
G	クラブ名	年次寄付目標	大口寄付者の目標数	新ベネファクターの数	「遺贈友の会」新会員数
		単位(ドル)	(人)		
第7	児 島	3,100	0	0	0
	児 島 東	3,080	0	0	0
	倉 敷	16,800	1	1	1
	倉敷中央	2,520	0	0	0
	倉 敷 東	5,780	0	1	0
	倉 敷 南	9,240	0	1	0
	倉敷水島	4,060	0	1	0
	倉敷瀬戸内	5,180	0	1	0
	第8	真 庭	4,620	0	0
美 作		5,180	0	0	0
津 山		12,460	0	1	0
津山中央		3,640	0	1	0
津 山 西		4,900	0	1	0
第9	赤 磐	2,940	0	0	0
	備 前	6,200	0	0	0
	岡 山	11,200	0	1	0
	岡 山 東	12,040	0	1	0
	岡山北西	7,000	0	0	0
	岡山後楽園	7,700	0	1	0
第10	岡山旭川	3,120	0	0	0
	岡山中央	5,740	0	1	0
	岡 山 北	6,300	0	0	0
	岡 山 南	21,700	0	1	0
	玉 野	4,760	0	1	0
	牛 窓	980	0	0	0
第11	岡山備南	5,040	0	0	0
	岡 山 城	3,920	0	1	0
	岡山岡南	4,200	0	0	0
	岡山丸の内	3,200	0	1	0
	岡 山 西	7,600	0	0	0
	岡山西南	7,980	0	0	0



2013-2014年度

派遣交換学生募集

2013-2014年度の地区交換派遣学生について、募集を開始しますので、希望者を貴クラブにおいて十分ご検討のうえ、お申し込みください。



基本事項

- ◆交換地域：アメリカ合衆国、またはその他諸外国
- ◆交換の期間：2013年8月より1年間
- ◆人数：3名
- ◆資格：クラブ会員子女またはクラブ会員が責任を持ち得る家庭の子女を対象とし、海外到着（派遣）時、2013年8月末に15歳から18歳以下の学生で、高校1年生程度以上の学力を有すること。
- ◆派遣、受け入れともクラブが責任を持つものであること。原則として派遣のクラブにおいて受け入れ、引き受けの義務がある。当委員会の規約に基づかないクラブ独自の交換については地区は関知しない。
- ◆派遣学生については、各クラブにおいて十分な人物選考を行ったうえ、地区委員会（ガバナー事務所内）に推薦し、地区委員会はその中からテストを行って合格者を決定する。
- ◆派遣学生の相手地区への往復の旅費の補助は1人当たり30万円である。相手地区における通学及び生活費は先方が負担する。
- ◆受け入れクラブについては、派遣学生出身の家庭をファースト・ホストファミリーにすることが望ましい。その後は、所属クラブ会員が輪番でその家庭に受け入れ、通学および生活の世話をする。

申し込み期限

- ◆各クラブから当委員会への申し込みは、2012年10月31日（水）必着とする。

選考日

- ◆2012年12月初旬を予定。倉敷市内において実施。詳細は後日通知する。
- 選考テスト：英語（英会話と筆記）・国語（日本語による作文）・面接

申し込み方法

- ◆長期青少年交換プログラム申請書（和文・英文）…各4部（希望クラブはガバナー事務所に申請書を請求のこと）
 - ・保護者の承諾書
 - ・学校長の人物調査書（クラスにおいて1/3以内の成績を収めていることが必要）
 - ・医師の健康診断書
 - ◆本人の履歴書および身上書（家族構成を含む）（用紙は市販のもの）（本人の写真添付のこと）…4部
 - ◆学業成績証明書……4部
 - ◆クラブ会長の推薦書……4部
- 詳細はホームページを確認のこと
<http://www.rotary.org/ja/> [トップページ] → [学生と青少年] → [青少年交換]

お問合せ先

第2690地区ガバナー事務所まで

文庫通信 (298号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万3千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご利用願います。以下資料のご紹介を致します。

最近のロータリー情報より

◎ 「あなたにとってロータリーとは何か 改訂版」	菅野多利雄	2012	23p	
[申込先：緑ヶ丘病院 FAX(022)366-6243]				
◎ 「国際ロータリーの考え方」	田村 泰三	2012	1p	(D.2710月信)
◎ 「CLPアンケートについての考察」	前田 眞実	2010	4p	(D.2720月信)
◎ 「続まことのロータリアン」	大澤 徳平	2012	1p	(D.2640月信)
◎ 「クラブの「多様性」について」	積 惟貞	2012	1p	(D.2620月信)
◎ 「P.F. ドラッカー5つの質問」	国永 秀男	2011	4p	(D.2680地区大会記録誌)
◎ 「中国『大国化』のなかでの日米関係」	松尾 文夫	2011	4p	(D.2650地区大会記念誌)
◎ 「国際社会における日本の立場」	青山 繁晴	2011	4p	(D.2660地区大会記録誌)

[上記申込先：ロータリー文庫]

ロータリー文庫 〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階 TEL (03) 3433-6456・FAX (03) 3459-7506
<http://www.rotary-bunko.gr.jp> 開館＝午前10時～午後5時 休館＝土・日・祝祭日

表紙説明

ジョヴァンニ・セガンティーニ (1858～1899) 《アルプスの真昼》 1892年 油彩・画布 86×80 cm

セガンティーニの画面を占めるのは、アルプスの峰々とそこに暮らす人々の生活。どこまでも明るい光に満ち、澄み切った空気こそが主役のように、中でも本作は彼の代表作。

印象派が生み出した、絵具を混色せず一筆一筆を細く塗り重ねる技法「筆触分割」で描かれるが、画面の手前から広がる草原が続く光景の描写は、草一

本ずつの動静と光の輝きを捉えつつ、同時に遥か遠方にまで破綻なく奥行きを連なせた、玄人をうならせる練達の技を見せる。

児島虎次郎は、最初の滞欧の際にサン＝モリッツのセガンティーニ美術館を訪ね、当時フランスで圧倒的な支持を得ていたミレーやピュヴィスト・シャヴェンスよりも、セガンティーニが格上であると、その作品を深く愛した。

国際ロータリー第2690地区
2012-2013年度地区 テーマ

「tsu ku su」

一家庭人として 社会人として 日本人として



国際ロータリー第2690地区 2012-2013年度 ガバナー
森田 昭一郎

〒710-0824 岡山県倉敷市白楽町249-5 倉敷商工会館3F
TEL 086-421-2690 FAX 086-421-2691
E-mail: info@rid2690.gr.jp